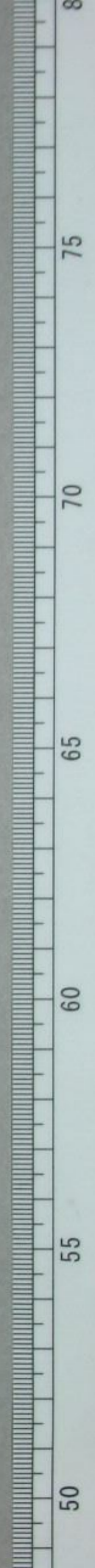
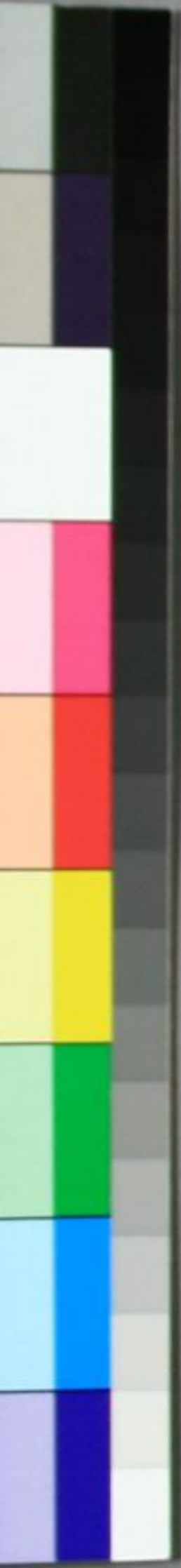


諸中名勝考

上

ル 4  
3728  
1





備中名勝考序  
 神哉天皇龍跡于天洲高嶺一舉而天下  
 天下遠近無不聞之故者知遠近之名勝也  
 之雖乃吾天之屬其地雖遠其地亦大矣其  
 在勝百餘大者六寺也  
 字之壇 天皇御位之治古來之故也  
 日教皇三出於道二殿祀天地神靈  
 各地致於五成殿其地雖遠其名亦大矣



三九三四  
 初集  
 初集考勝名中備

門 4  
號 3728  
卷 1

備中名勝考序

卷五

神武天皇龍騷于本州高島一舉而卒定天下遂開無窮之統舊趾遺蹤至今彰々也雖乃晉天之慶其輝光於我也大矣且名勝百餘大率大嘗歌頌而詠也恭惟大嘗之禮 天皇即位之始首舉之散齋一月致齋三日新建二殿祀天神於悠紀殿祭地祇於主基殿其禮極嚴正選十有四

早稻田大學  
25.7.5  
雅

國卜土吉於其中神祇官率國司以定祭  
田嚴為界限吏勤民耕至秋收輸稻於御  
廩乃春諸齋院以供粢盛夫新嘗之禮起  
於 始祖天照大神郊祀於 神武天  
皇大嘗備於 天武天皇之朝天下之重  
祀國家之大典莫盛於此焉延喜以降省  
其十一定修紀祭田於近江主基祭田於  
丹波及本州命詞並詠當國之勝地以為

樂歌且以為春歌又書其詞於新殿屏風  
并圖其景近江丹波蓋取諸便近其於遠  
方也乃天下之廣獨本州中其選專其榮  
豈無由邪其他指紳賞詠之地亦往々有  
之恨經歲久遠名泯地疑者居多矣向者  
雖有二三考勘彙合傳會摺雜難信覽者  
病焉壬申秋或勸余撰備中志余以其事  
至重且老病不任辭之甲戌秋復勸之兒

清之清之謀諸余曰志豈易言哉若夫名  
 勝之考則游歷於山川原野細繹考索以  
 弄其筆研庶亦足以舒情適意乎餘為後  
 園可笑頃者書成質諸余且請題卷首余  
 乃書其平生所懷以與之云  
 文化十二年乙亥秋

楳園 小寺清先撰



備中名勝考序二

備中名勝考序

備中名勝考序  
 夫名勝之考者  
 一曰地勢之險要  
 二曰名蹟之宏偉  
 三曰物產之珍異  
 四曰風俗之淳樸  
 五曰人物之賢達  
 六曰文獻之淵博  
 七曰詩畫之流傳  
 八曰碑碣之遺存  
 九曰園林之雅緻  
 十曰寺觀之莊嚴  
 十一曰宮闈之宏敞  
 十二曰樓閣之壯麗  
 十三曰亭臺之幽雅  
 十四曰橋樑之雄偉  
 十五曰舟楫之靈便  
 十六曰車馬之通達  
 十七曰商賈之興隆  
 十八曰士農工商之各安其業  
 十九曰兵革之無虞  
 二十曰禮樂之興行  
 二十一曰刑罰之無枉  
 二十二曰教化之流行  
 二十三曰風氣之淳樸  
 二十四曰人心之和睦  
 二十五曰物阜民康  
 二十六曰天下歸心  
 二十七曰萬民稱頌  
 二十八曰名垂青史  
 二十九曰流芳百世  
 三十曰永垂不朽



Handwritten text in a cursive script, likely a list or index, consisting of approximately 10 lines of characters.

備中名揚考序四

Handwritten text in a cursive script, likely a list or index, consisting of approximately 10 lines of characters.

備中名簿考序  
一、備中名簿考序  
二、備中名簿考序  
三、備中名簿考序  
四、備中名簿考序  
五、備中名簿考序  
六、備中名簿考序  
七、備中名簿考序  
八、備中名簿考序  
九、備中名簿考序  
十、備中名簿考序

備中名簿考序

一、備中名簿考序  
二、備中名簿考序  
三、備中名簿考序  
四、備中名簿考序  
五、備中名簿考序  
六、備中名簿考序  
七、備中名簿考序  
八、備中名簿考序  
九、備中名簿考序  
十、備中名簿考序



叙言  
 地之名者未必勝其勝者未必名  
 何地不可賦也然本邦風俗醇厚  
 播紳名公所嘗賦詠則以為名勝  
 從而和之耳記而傳之者以慮十  
 數編而六百餘郡之地案上定之  
 豈能無訛謬邪本州名勝不為不  
 多也惜乎記者莫能舉其全而率

備中名勝考序六

文政三十四年五月

三備のさし

上宮宗家

叙言  
 地之名者未必勝其勝者未必名  
 何地不可賦也然本邦風俗醇厚  
 播紳名公所嘗賦詠則以為名勝  
 從而和之耳記而傳之者以慮十  
 數編而六百餘郡之地案上定之  
 豈能無訛謬邪本州名勝不為不  
 多也惜乎記者莫能舉其全而率





所らんハ。人己らん  
そ結とらぶるゆゑ  
とちなるはさ事なれど  
たぐにものしつ。

備中名勝考凡例二

備中名勝考上目次

行宮部

高嶋宮

葺守宮

山方

神社部

有木神社

石屋山社

津村社

柏嶋社

木綿崎社

津嶋神社

高岡社

郡部

小田郡

英賀郡

里部

村部

板倉里	大井郷	野山里
深井里	二万郷	川色里
富田郷	倉垣郷	豊忌里
中井郷	稲井里	
長良村	松尾村	長尾村
八重村	吉田村	石倉村
きくが村	玉村	玉田村
石村	永富村	

鴻部

備中名簿考上目次一

浦部

高野鴻	日間箸	菟戸島
戸嶋	柏箸	大島
林箸	高島	月中鴻
白石島	出鶴島	

山部

玉浦	金浦	磯間浦
菟浦		
吉備中山	吉備のお山	吾木山
鼓山	雄倉山	石屋山

神村山	位山	日差山
叢崎山	麻佐木山	妓山
富山	大倉山	石目山
加佐木山	石倉山	高月山
弥高山	松系山	長回山
玉弦色山	松山	高倉山
秋坂山	大村山	高機山
黒髪山	总見山	直山

備中名勝考上目次二

備中名勝考上

小寺清之輯録

行宮部

○高嶋宮 小田那神属焉○高嶋の内より王  
 泊といふ所あり。これ皇居に即依  
 なり。かたよりつゝたり。をりしに。叢  
 麓那とて出たり。そは。ちびにくだけた。  
 物ハ。つち子みち  
 てまど

日本書紀云。神日本磐余乙卯年春三月甲寅朔。  
 已未。徙入吉備國。起行宮以居之。是曰高嶋宮。積  
 三年間。備舟楫蓄兵食。將欲以一舉而平天下也。

古事記云。同天皇於吉備之高島宮。八年坐

○葦守宮賀陽郡足守

日本書紀云。輕嶋明宮御卷二十二年。秋九月。辛巳

朔。庚寅。亦移居於葉田葉田此葦守宮

山方窪屋郡山手。○西於地既。忌谷。宿。是を  
いふゆゑ。俗云。海の方を海方。河の方  
を河方。さして山方。さして山方。さして山  
あり。文字ハ幸山と書來れり。幸行る一  
の名なる。海方。山方。さして山方。さして山  
まゝ。さして山方。さして山方。さして山方。

古事記云。難波高津宮御卷。天皇聞者吉備海部直

備中名考上一

之女。名黑日賣。其容姿端正。喚上而使也。然畏其

大后之嫉。逃下本國云云。天皇戀其黑日賣云云。

幸行吉備國。尔黑日賣命。令大坐其國之山方地。

而獻大御飯。於是為煮大御羹。採其地之菘菜。時

天皇到坐其孃子之採菘處。歌曰

夜麻賀多途。麻祁流阿袁那母。岐備比登登。等母

途斯都采婆。多怒斯久母阿流迦。

山草のちハ。罪卷のあげつらひれ  
きたり。比のちハ。け草よる法。

神社部



備中名搦考上二



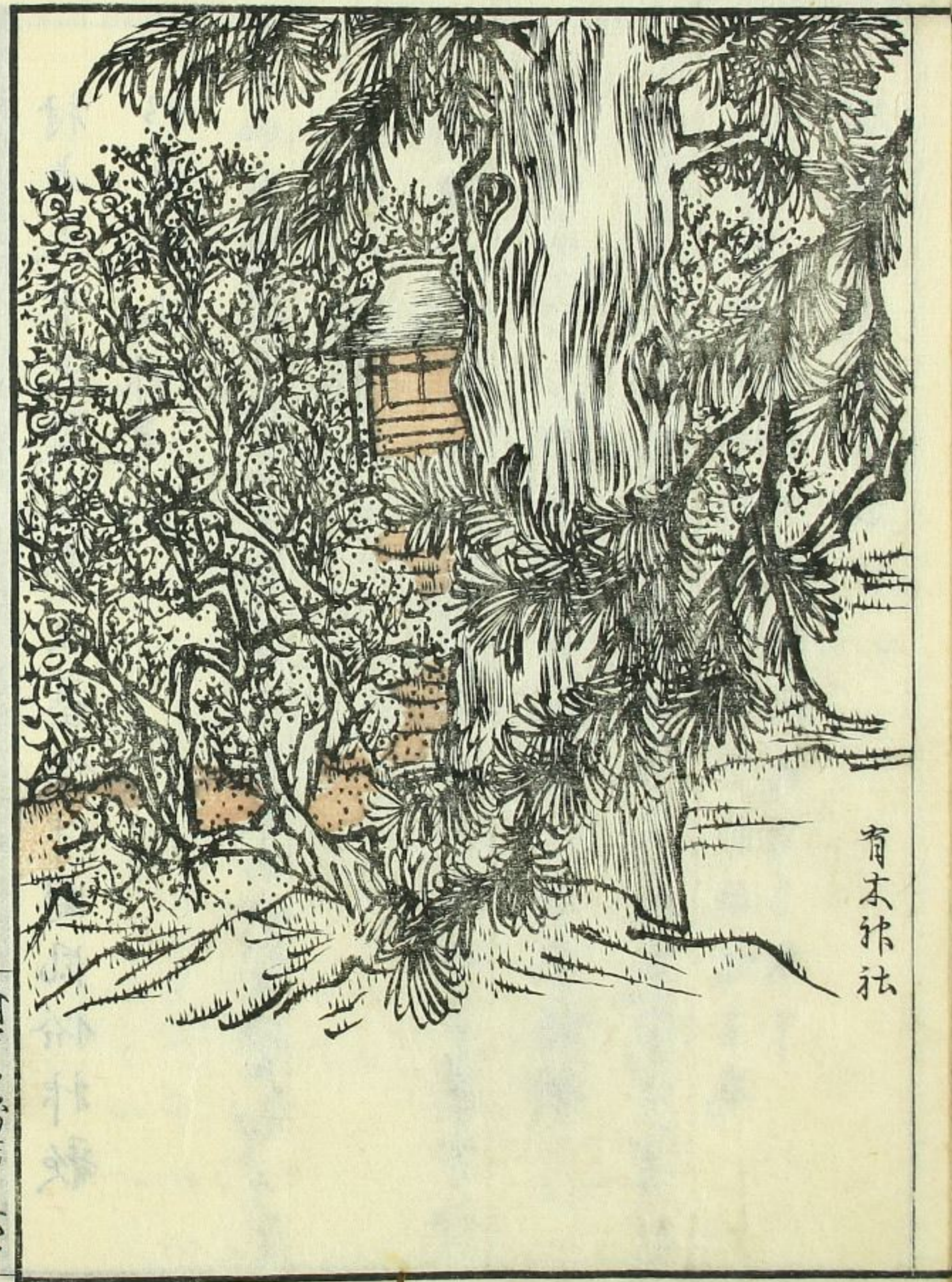
言清王泊







細谷河



育木神社

備中名勝考上巳

村の旧記よりゆ  
又天祐社ハをき  
代は山ノ麓よ  
りついでなり  
いかにむけらる  
らむと思ひよれ  
る事ありて是な  
るハ別巻ニ記す

かえむら山 祐守保安四年天掌云々基方所  
屏風 後永行盛於此

子孫振ふむ山結きりてのいやくのそにのりてむ

山とて。今ハ万  
代集より云

史本抄云

正意天掌云 此度のま基方ハ。平州なり一車。

志るされバ。こ  
こに。保安の度に  
人なり。正意よ  
隆博感とあれ

備中名考上五

のえ。隆博郷なる。位山。日差山など。た  
び。引るまで。形ら。形是ハ改免つ。

万代よりしてそのいのみちをわたりて村山の家終りしなり

○柏崎社 後口。柏崎村の産林。八幡社なる

大嘗會和歌集云

後冷泉院永承元年十一月十五日を基方備中

本原夏草情士譜破林森系教長家經

益夏柏等繫舟有採極人

志に生ふ極人。まはき極いのりなりて行月をそやる

○本錦崎社 後口。大谷村の内。夕崎とい

今川社なり。○こゝにツバキ  
花をいふ村も。勇勝といふ歌あり。

文木抄云

左宰の任よて下々る時 大武言遠御

神事... 叶秋のあふ。瓊泊の歌あまて。手鑑カキ御ふも  
左宰任よて下々るに。云云とあり。因ヨり御  
のおなご度の歌と見ゆ。叶ゆハ。かの  
瓊泊よ里古里ハ。西よ多て。古の海路  
なり。一取歌り。昔ハ。に。大木の松あり  
て。代多といま。めたり。二十年修り  
あつかひ。大風よたよ。二十一年修り  
志かるに。播磨國の名取と書ある。こ  
路あり。なを歌巻よ  
河げつらひたけり。

備中名勝考上六

○神嶋神社 小田歌。神島介浦よれと。まは  
何と云  
と歌り。

延喜式神名帳云。備中国小田郡神嶋神社。

續拾遺和歌集云

延久九年大嘗會皇基方の御屏風よ備中国

神嘗有神祠取字 兼守納之資實

神嶋の巨杉... 神嶋の巨杉... 神嶋の巨杉...

○高岡社 阿賀郡。中津井  
村よれと。七也。

大嘗會和歌集云

後一条院長和五年十一月二日之基備中国

已帖  
十三日  
言圖

内藤権政善流歌長為政

そり子行もそり言思の法法林も君の海もれふ  
系本又。才二の句れ。志るくと。志るくとと  
るハ。俱なる事志るけきバ。あらしうえつ。

那部

○小田那 和名鈔云  
小田太。

大嘗會和歌集よ云

後冷泉院永承元年十一月十五日之基方備中国

系本又ハ。之基方備中国の。六字なけきど  
も。此永承の之基方ハ。本州な甲しる。次の

備中名務考上七

英変歌の歌。下はひける。細茶集此言金山  
の歌。金葉集此。二万々の歌よて。明らうか  
きバ。例よと里てたがすいつ。次なるも。下  
那るも。永承の度此歌ハ。そ那志うなり。上  
なる。松島社の書よていふ法う甲しと。わ  
まれておとつるゆえに。こゝに物しつ。

本願寺書院土御宿権外書院歌長為政

善秋小田那多前田家

中へつる小田の歌よか。輪の秋をそよとも見せし城を

○英賀那 和名鈔云。英賀加。古書う歌。英の字  
中りた。志たが  
へるなる海。

大嘗會和歌集よ云

後冷泉院永承元年十一月十五日皇基方備中國

本上院皇太子權後檢校兼左大臣家經

稻春哥

授檢 英賀郡

吉備の兵り兵部の書物つ物やつ不ぬきてはしきをけり

柔中の書物の白ハつり不とあるハ。誤  
なるも。いぢるをぬき。あらうを免つ。

里部

郷名なるとも。里と書。郷名をらぬとも。  
郷と書て。郷里。おかよけて志るされ

む。たおくけ  
記よいまつ。

○板倉里

賀陽郡  
板倉村。

大嘗會和歌集云云

備中名後考上八

後三条院治暦四年十一月皇基方備中國

板倉里

前筑前守從五位上兼左大臣經衡

あつ免りしは、此稿のたふれいおさき、やうに板倉と云

○大井郷

賀陽郡  
大井村。

大嘗會和歌集云云

後三条院治暦四年十一月皇基方備中國

大井郷

前筑前守從五位上兼左大臣經衡

えい清もつて七法の里とす物たかの里とすの事。即ち

○野山里

賀陽郡  
野山西村。

夫木抄云

乃やま能里 望山 備中 正安大嘗會國々名所等

大藏御隆教

あはれ秋の登山能里人々りり能る世の月々みらるる

○深井里 今ハ別府と云。

大嘗會和歌集云

後一条院長和六年十一月主基備中國風俗

系本。御屏風の歌十八首ありて。次ハ此風俗歌ハ。備中國の三字と。歌之の官とを。えふけり。今ハちて。あるを。備中國の三字と。御屏風の歌法例よりて。た

備中名簿考上九

ないつ。下ある。この長如の風俗の歌。今ハ志。なり。

深井里 今ハ別府 和字歌 善法為政

天下若しつゝふ徳人の深井能里の多り起るる

○二万郷 下道郡。上二万村。下二万村。

令業和歌集云

後冷泉院の御時能大嘗會の皇基方備中國

二万郷云よ免る

さす物ささるるささるるささるる二万能里人数ささるる

夫木抄云

小浦能きく 二万 正安 大掌云

大藏御階教

其子印子喜能也之のこも物よりそふの里人  
文應元年大掌會皇基備中園稻春等

從二位行家御

むのこく神能也之田の種をれを二万対しぬやそく

○河邊里 下基 新 河邊村。

夫木鈔云

川邊里 備中

大藏御階教

備中名簿考上十

志ろく之の流しりる能き見そかそく之の里にさけふ御を

○富田郷 中野 大掌云の歌云。かくはふれがけ

注。玉田村と。旧説云。玉村と。さふなならん  
て。是字。後口新富  
村と。さふな。

大掌會和歌集云

後三条院治暦元年十一月皇基方備中園

前筑前守從五位上藤原朝臣經衡

富田郷樞河所入苗代

種をける苗代はさきれあきて富田能郷に浦をてさきみる



○倉垣郷 後月款。井原村の月とあり。

大嘗會和歌集よ云

後一条院長和六年十一月主基備守國風信

退治吉吉  
倉垣郷

善治為政

おのより教ふおそておのる先代なつむいさかた山  
末の白結。山の字ハ。ハの字と。保まるとりき  
あらむや。歌ふもたがひ。又倉垣ハ。山あふ  
取よつらげ。されど。今れりよむね  
あきだ。志ばらえ。もとのまよ。まよ。  
○豊園里 豊多歌。文河内村結旧名。○今も  
夫木鈔よ云

備中名考考上十一

とよ思結や、豊思 備中 正安大嘗云

大庭御階教

時よあふ民の心もよまらけし御代のそと先結豊園れき

○中井郷 河賀郡。中津井村。和名鈔云。中井都奈郡。

大嘗會和歌集よ云

後三条院治暦四年十一月主基方備中園

稻春寺 中井郷 前筑前守從五位上藤原朝臣藤原

あきつむし代のたえりよけささむいさかたの編結年御よる式  
系本よ。なるゆと長井とよ。  
今歌よよとて何ら當えつ。

○稲井里 吉備物語といふ物などに。是字突  
 詞も幸く。かつ下の井。或ハ種井とあま  
 もあてて。不のさ海。去。里とも。稲井  
 ぞ。そのおに。稲なにと。い。る。村。名。お  
 まど。も。苗代。ね。ま。の。村。名。お。く。に。あ  
 道。那。中。庄。村。の。稲。井。田。と。い。ふ。所。あ  
 なる。べ。ふ。の。堰。の。さ。か。の。河。も。あ  
 又。小。田。那。字。内。の。詞。也。い。ふ。所。也。  
 も。あり。堰。の。さ。か。の。河。も。あ。り。さ。れ。ど。い  
 が。へ。ま。ど。い。ま。の。さ。か。の。河。も。あ。り。さ。れ。ど。い  
 れ。も。不。ゆ。る。ぞ。か。し。

令葉和歌集よ云

備中園いな井の里と人よかきりてよめる

言階明頼

備中名考上十二

苗代のおといふ井よ海をたり或やまけあるるの代に

村記

○長良村 賀陽郡。長良村。○今窟木村。 講多村。と三村に分れたり。

大嘗會和歌集よ云

後一條院長和五年十一月主基備中園風俗

長良村 善滋為政

退治考考す  
 ちひのふなうらむ村は臣民をくつれそをくん程そ久し記

○松尾村 下道郡。下二 万村の支村。

夫木鈔よ云

隆教

米の世にわさぬ世に子孫しつゝまた松尾の小松守を引

○長尾村 後口歌。長尾村。○今歌。大嘗会の際  
供田と唱へて。昔々来りし田あり。

新拾遺和歌集よ云

後三条院御時大嘗会儀中御尋

長尾村

後承経衛

をるかまういより来りしつゝ長尾の村にたのむ記をたると

○八重村 後口歌。  
八重村。

丈夫抄よ云

八重村

備中

正安大嘗会

大藏御隆教

やこむにさけをやまふいふをう河のぬまの河ひのさきをかぞねん

○吉田村

小田歌。吉田村。

○増書ハシカキの下よ。備中

下道と。細辭あるハ。今ハうきたるよ  
。そ歌よ。け名の村なり。今ハうきたるよ  
。や。ま。ふ。た。り。し。つ。つ。下。道。を。夜。の。ト。倉。又。あ。こ  
。と。志。る。た。る。の。こ。う。さ。て。吉。田。村。の。田  
。植。す。よ。け。村。の。ま。せ。と。御。代。の。え。ど。免。み。た  
。さ。む。る。す。し。な。う。た。こ。り。そ。あ。い。り。の。村。に  
。に。も。又。う。船。ら。れ。な。う。り。そ。あ。い。り。の。村。に  
。の。事。終。始。の。つ。ら。ら。踏。ま。る。な。る。べ。く。れ。も  
。不。ゆ。き。ぞ。志。ぞ。ら。く。こ。の。村。と。あ。げ。は。は。

大嘗會和歌集よ云

後土御門院文正元年主基

備中下道



八重村

備中名物考上十四

末久ノ契テモ、諸ノ民トシテ、國ノ村ノ事トシテ、

○石倉村 小田郡 石倉村

丈末抄子云

石倉のむら 佐中 正安大嘗會

大藏卿隆教

〜世ノ事トシテ、後月村ノ事トシテ、

き〜後月村ノ事トシテ、本村ノ事トシテ、

上にして、今ハ本ノ事トシテ、

一説ニ、小田郡ノ事トシテ、

とい〜山ノ事トシテ、

補中名考卷上十五

丈末抄子云

き〜佐中 正安大嘗會

大藏卿隆教

〜世ノ事トシテ、後月村ノ事トシテ、

○玉村 川上郡 玉村

大嘗會和歌集云

後一条院長和六年十一月二日主基備中国

内務省長官為政

〜世ノ事トシテ、後月村ノ事トシテ、

丁帖 七月

後冷泉院永承元年十一月十五日之基方備中國

本願兼文章博士權波檢外藤原朝長家經

早春朝人々多白玉村三宅

け影。文字のあやまりも。たちたる。

もきべし。今きたりなることと思ひえぬ。志ざらなくかのまゝにす。

まゝしらす。素直物ゆくりのまゝにす。まゝにす。まゝにす。

○玉田村 川上 歌

大嘗會和歌集云

後冷泉院永承元年十一月十五日之基方備中國

本願兼文章博士權波檢外藤原朝長家經

玉田の家系稿。○。 二文字脱たる。今考へがたし。

あまみ玉田の村の家ゆき。ふさねのまひこのりぬ

系中。才田のゆけ。と。いとふい強なり。

○石村 上房 歌

大嘗會和歌集云

後冷泉院永承元年十一月十五日之基方備中國

本願兼文章博士權波檢外藤原朝長家經

石村 諸君。石村のまひのまひ。石村のまひのまひ。石村のまひのまひ。

○永富村 所安 歌



南  
洋  
名  
鳥  
考  
上  
七



あ  
の  
ひ  
ら

大嘗會和歌集よ云

後圓融院永承元年主基備中

忠光

<sup>稲舂</sup>ちりり。古え海。今ハトバといへり。この

鳴部

○鳥羽崎 於字。鳥羽村。○秋よすれば。トリ  
りりり。古え海。今ハトバといへり。この

大嘗會和歌集よ云

後冷泉院永承元年十一月十五日主基方備中

備中名簿考上十八

本之頭兼章博積波棟林者系朝臣家經

仲夏鳥羽崎有牧馬急る新系人

牧駒とりを新まの交るをちりりけるのみまをけりよかき

○日間崎 窪屋郡。新島村。○ヒマシマを  
又日間山といふ山。今ヒルマト唱ふ  
ハ陸まづ。たれども。形り。けり。今  
古え海なり。一取あり。

大嘗會和歌集よ云

後三条院治暦元年十一月廿一日主基方備中

日間鴻名吳船

前筑前守後右佐左衛門尉長鐘衛



足平一浦の釣をあるまじくおぼしむるに神のたまはたぬ世なりけり

才四の句。文字脱しふなる  
皆一。今ハリとてまゝにま。

○後戸崎 名なりけん。今ハリとて。備前国児嶋郡。此

地名。本州ハ今ハ絶て。備前国児嶋郡ニ  
あり。昔ハ本州ノ地名也。かしこニうつれ  
る。又。昔ハ本州ニ在りし時。下ニ引  
天竺九年と。永承元年との。教と見て。明ら  
かたり。本村の山つゞ多なる。備前必ハ  
天堦よりハ。今児嶋ニ。後戸といふ。不ハ  
る。つゞに。橋ひとつか。か。こにうつりし  
別。志る。志る。地名也。かしこにうつりし

大嘗會和歌集ニ云

備前名考卷上十九

後一条院長和久年十一月主基備中国

乙帖  
後戸崎

内務省改善滋養局長為政

後つ浦もけり。中より。君の代は。後つ浦のありぬえ

○戸崎 漢に和。乙帖ナリ。○叶。不。を。ま

大嘗會和歌集ニ云

後冷泉院永承元年十一月十五日主基方備中国

本記兼文章博士讚岐権林後兼和家經

後冷泉院永承元年十一月十五日主基方備中国

足平一浦の釣をあるまじくおぼしむるに神のたまはたぬ世なりけり



備中名抄考上二十



玉田村

系中。才田の夕。法の字  
照たり。今ねがう。ねひつ。

○柏寄 清口歌。柏寄村。○ろくも。  
今を懐よ法く死たり。

大嘗會和歌集よ云

後冷泉院永業元年十一月十五日皇基方備中国

本立既兼素博士撰後撰兼素系於於家經

孟夏柏寄繫舟有採松人

志に生る松の島結き柏いのをりて架て神月あそびるふ

○大碕 清口歌。大碕。○窟屋形ふも。同名ゆ  
る。されど。清口歌なるを。和名ゆ又出

たきバ。くれなとる。くいも。いにし  
へを海の中よありしところなり。

備中名考卷上二十二

大嘗會和歌集よ云 基方の所記に於て

村上天皇天慶九年壬基備中国風俗神歌

ねがふ海

たけりまたいささかをく恒踏のよけゆへ信を最まに

秋風集よ云

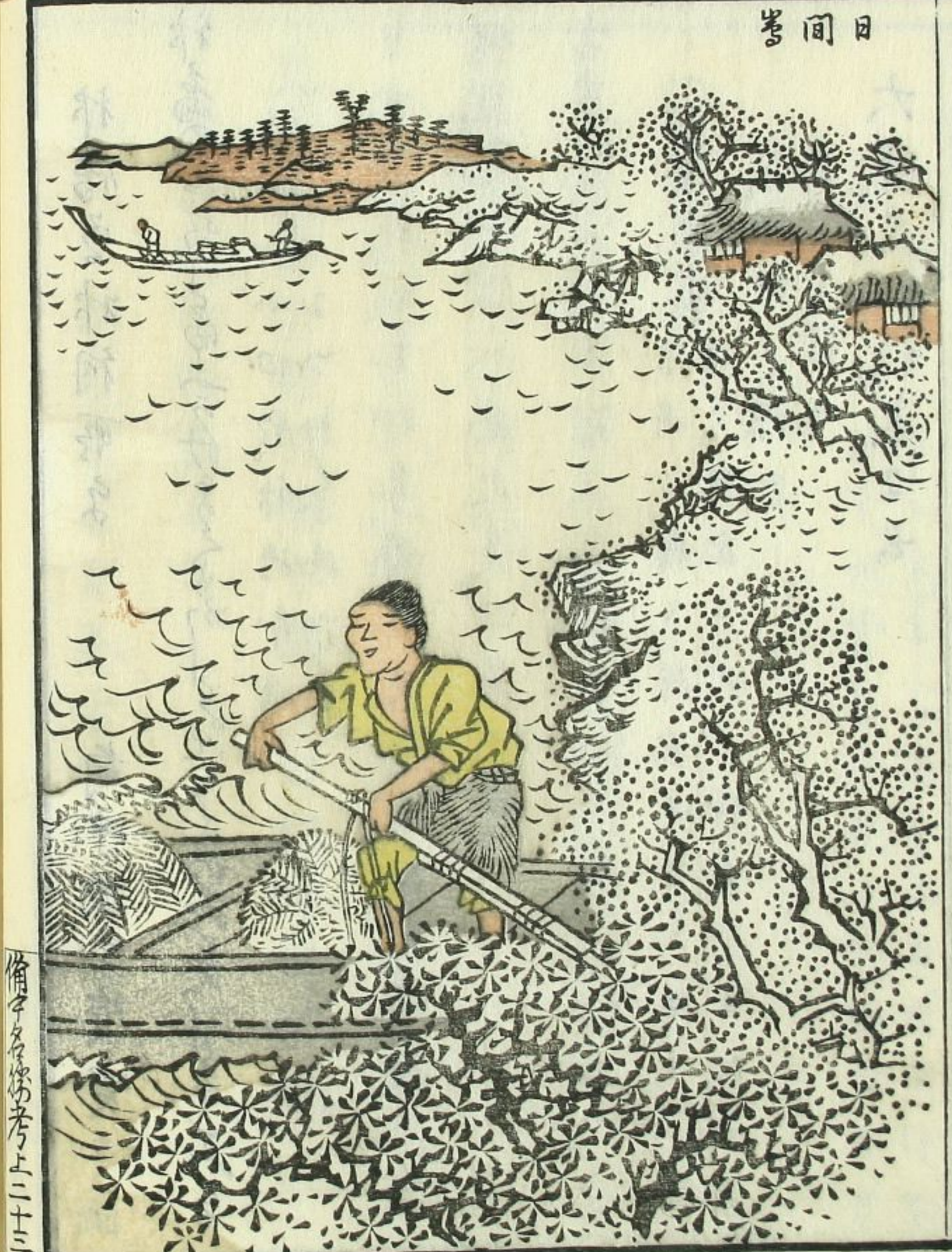
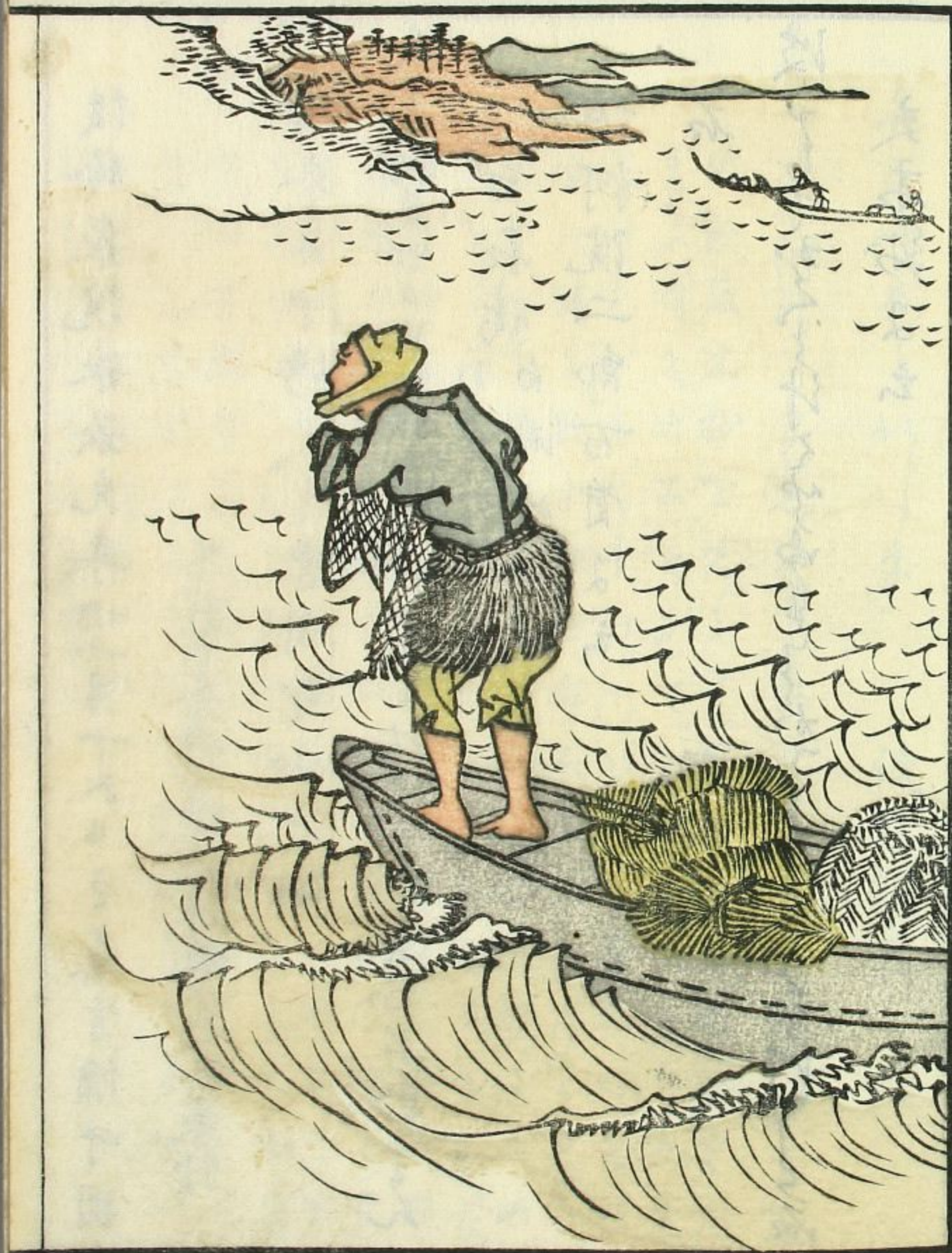
後醍醐院仁治三年皇基風俗 備中

怪光

大いそ松の風よ中海ををみらあふ時の秋結もら風

○神鳩 小田歌。神鳩。○和爾雅よ。備中  
雨と一。秋寐是ふも。備中一。細書





備字々々々々上二十三

後冷泉院承永元年十一月十五日壬基方備中国

本意惠奉鶴士贊後林後系胡長家經

伴冬月也鶴人々乗舟聖山之処

久る結月也つと紀や君代の夢結つる事と依名形とらん

○白石鶴小田歌。白石鶴。

横河院二郎百首又云

石 顯伴御

波よりそかくとけと中曲多しとかくも見しとけつとる

夫本抄又云

備本名依考上二十四

名取寺志らけり字 後頼朝長

是う形沖結しと名志まきと物舟り舟のた紀とわと

此歌。本抄と見ると。筑紫よ里。のがりた  
まよ時よ。けつとをこて。よみよとるなり。事  
長けさばもりつ。○けつ。の。西北のるれ  
方結満よ。數十奴の白石。そびえたてり。こ  
れやがて。鶴の名とたれり。歌よ。此  
石とよみよ。つとるなれど。そ石の。ある。不  
るがゆゑ。つとる。あげつ。和爾雅云。備後國  
有稱白石所。今按よ。けつ。備後國の。鶴と。な  
らびたる。これよ。里て。幸多。國。人。舟。る。て。う  
ち。三才圖會。ふも。漸の。所。を。免。ぐ。ま。る。な  
こ。に。て。あ。ひ。こ。に。て。わ。か。る。る。と。い  
なり。志ら。れ。は。是。り。か  
なり。此。考。の。り。なり。

○古鴉鴉小田歌  
古鴉鴉。

山家集云

またんくと中鴉鴉。系よ里あふ人とも結ふた  
りて。やうししのつこけ物とも。あまをいひて。  
又いそくの志まよわたりて。あまをいそんす  
るよ。かけるとて。

またんより志えくかまあまをいひて海もせうと

才臣の白け。つこけ。  
あま書よつこけ。

浦部

○玉浦淡口形。玉浦。○  
下又浦なり。

萬葉集云

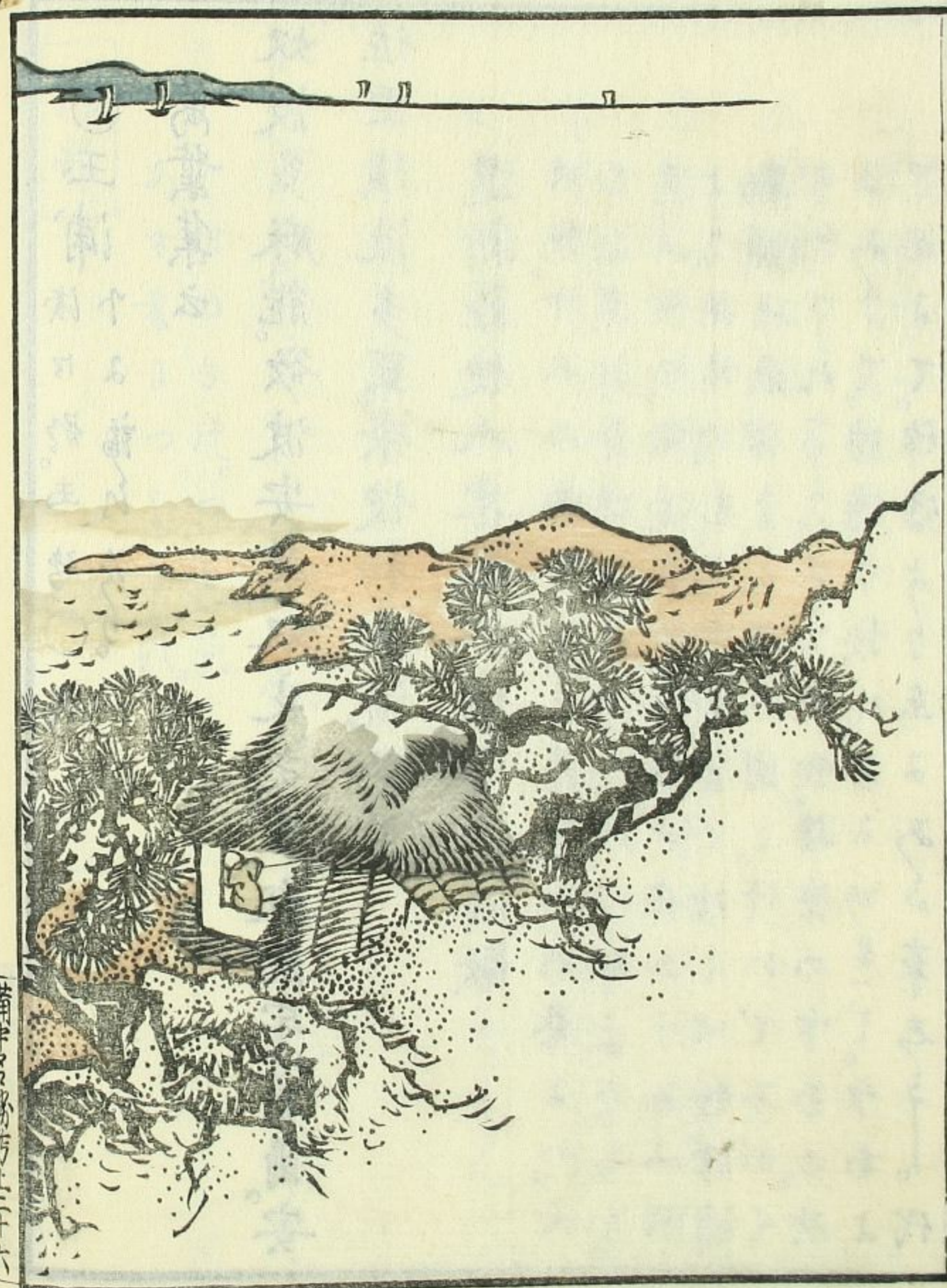
奴波多麻能。欲波安氣奴良之。多麻能宇良爾。安  
佐里須流多豆。奈伎和多流奈里。

遣新羅使人乘船入海路上作歌

此歌十三の巻に見えたり。かの巻ハ。大  
むね。遣新羅使の。そけり。みの都ふたり  
ま。小川の。船。出。又舟出。し。あ。小  
より。海路の。む。こ。下。南。など。次。く。け。歌。神。時  
鞆浦。長。君。浦。など。西。の。國。へ。け。い。で。た。が。え  
ぞ。記。され。り。さ。て。け。歌。播。磨。の。下。南。の。次  
に。あり。て。神。時。の。歌。也。若。よ。あ。ま。を。い。ひ。て。代  
里。西。よ。て。神。時。より。東。よ。あ。ま。を。い。ひ。て。代



江  
湾



浦  
津  
名  
録  
卷  
上  
二  
六  
六



通記にも。次下の歌。備中。備中の作。な。是。様。  
 備前。備中の間。なる。べし。とい。こ。り。備前。は。  
 ハ。似。か。よ。ひ。たる。名。も。笑。え。ぎ。然。ま。だ。本。州。  
 の。玉。碕。と。玉。浦。とい。ひ。當。ら。ぬ。今。も。玉。  
 碕。と。ハ。似。こ。る。なる。べし。又。た。り。よ。玉。と。  
 い。へ。こ。り。と。より。地。名。も。て。碕。なり。一。枚。  
 又。玉。碕。とい。ひ。玉。浦。を。玉。浦。とい。ひ。川。  
 川。上。形。の。玉。村。の。後。と。玉。の。後。と。似。こ。  
 る。と。れ。な。り。か。る。べし。を。き。せ。ま。で。り。海。中。  
 な。り。一。枚。取。り。今。も。ま。る。碕。多。き。取。り。て。歌。  
 此。意。も。よ。く。か。  
 な。こ。る。不。なり。  
 ○金浦。未。詳。○む。の。浦。と。し。海。邊。なり。一。取。り。今。の。  
 け。地。名。何。れ。の。浦。と。し。と。た。づ。ね。と。ひ。片。邊。と。  
 不。あ。り。浦。と。は。い。の。山。の。た。づ。ま。ひ。  
 を。か。し。た。不。なり。郷。名。も。魚。漕。と。た。ひ。て。今。  
 小。舟。た。や。る。不。なり。歌。の。お。も。む。さ。

備中名考卷上二十七

小もよくあこり。こり。  
 ありにをあらざや。

大嘗會和歌集よ云

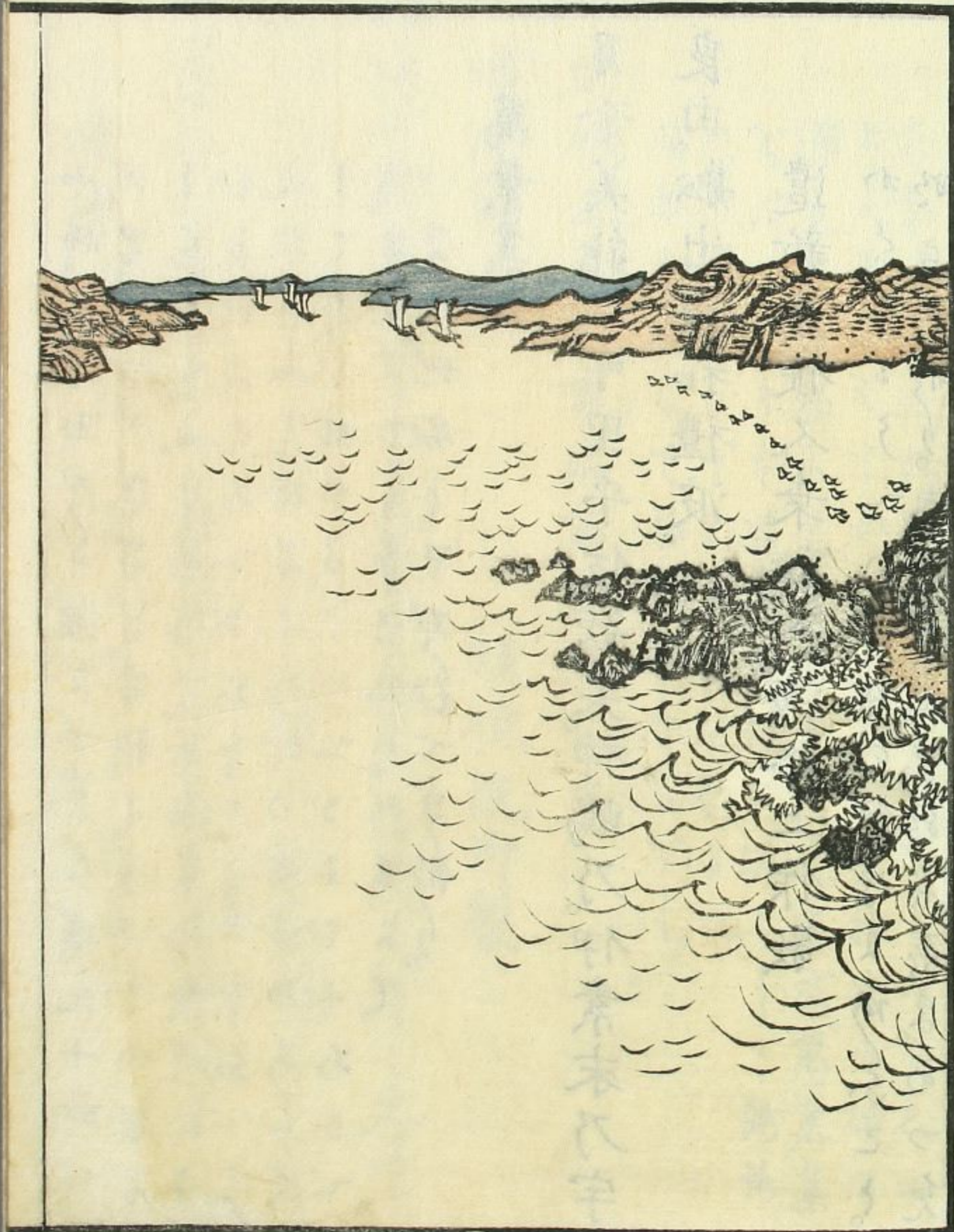
後冷泉院永承元年十一月乙基方備中國

本上殿兼定奉持土讚波林最系於長泉院

金浦と換約舟

ね。さ。ら。風。浪。と。は。信。も。多。ぬ。よ。ふ。か。の。の。こ。り。よ。り。と。出。ふ。あ。ま。舟。  
 才。二。の。句。と。原。本。は。ハ。文。字。に。も。あ。ら。ぬ。こ。  
 と。小。か。さ。ひ。が。免。たり。今。その。か。た。ら。よ。よ。  
 甲。て。か。く。ハ。毛。の  
 一。つ。り。なり

○磯間浦。小。四。形。林。碕。所。浦。の。因。也。名。為。と。い。  
 ふ。不。なり。此。不。東。の。方。は。白。ひ。南。は。ハ



備中名勝乃上二十八



山崎片一出たる限まで。あら磯凡十町ハ  
ウ里もつゞき當里。古歌もあつての磯  
とあるも。よゝありて。萬葉集の歌にたも  
むきに。よゝあゝる所なり。こゝな系べし。  
又たゆゝ不。磯名といハ。地の名もハあら  
して。たゞ磯の名といへるよゝあゝるべ  
し。さゝよて。幸の跡ハ。お落よて。  
いまえ地名と。さだむべきなり。

萬葉集云

月余美能。比可里乎伎欲美。神嶋乃。伊素末乃宇  
良由。船出須和禮波。

遣新羅使人乘船入海路上作歌

かくあるうへハ。中砂の神嶋又伊素末乃事。  
明らウなり。志わるに。佐法名取字。あつ免

備中名考考上二九

たふ書どもに。磯名浦を。紀州とのこ志る  
きる也。くえーからぞるなり。神嶋も。磯名  
浦も。古事物よ見く當る也。延喜式。萬葉集  
を。はゞ先とて。遣新羅使の。通さし。海路  
ハ。中州なるぞかし。紀州なりハ。  
同名矣。取よて。今の事なるべし。

建保三年内裏名取百首よ云

磯間浦

順徳院御製

神嶋や磯名浦よあまの系もたむかへしつらみつ

從二位家隆

中居のけりそそる神嶋やいそまのうらに衣かへし

○後浦

磯名浦の。南よつゞきたる  
取よて。南に向へる浦なり。

大嘗會和歌集よ云

後三条院治暦四年十一月至基方備中國

三日月  
菰浦より里程能 前筑前守後位上菰原朝臣經衡

舞あつたそよふらふら能給れ能者能うらにそよ那き能ふらり

山部

○吉備中山 聖陽殿。宮内村よ在。○一の  
宮に。たゞせも浦よ少那り。

古今和歌集よ云

生つぬもくもひの中山草にそふ細谷川能たれよさや久能

新古今和歌集よ云

天曆御時大嘗會至基後中國中山

よみえし〜らに

常盤なるもさひの中山村あてり〜さよまらの源能を能

大嘗會和歌集よ云

後一条院長和五年十一月二日至基後中國

吉備中山

内藤権良言滋於長為政

今これちり〜君の治代よ浦のゆきさるひの中山と能わはよ

文正元年至基後中

は多しと吉備の中山より〜能るゆきはの稻種ぬら〜ゆく

○まひ結お山 中山よ。一宮のたをく由急す。大山といふ意にて。當ふとみ  
て。お山と作しるなり。秋篠是  
ふも。まびの中山と作る也。

夫木鈔よ云

す結た山 依中 兼徳二年正月庚申年合

處

よみ印しらん

喜結くるけしるをくたを結ふやむ結お山のみぬの義す

○有木山 賀陽郡。玄月村よ。  
○中山よつづけ也。

大掌會和歌集よ云

後三条院治暦四年十一月之基方備中因

有木山有神祠

前筑前守俊成位上藤原朝臣經衡

初とてまのり結山守れをちまのり結たのまのり結

夫木鈔よ云

あ里起山 依中 名形守中 盛永

ありき山今ありきとも君しぬをかそくもきく先松結ちしき字

兼徳二年正月庚申年合 楠盛永

万代にありきの山結ふ桂君ささるゆく所杖も我らも歌

中山のつづまなる有木ハ。セぞた取たれ  
ど。成親卿の配取よて。つひよそこよて。あ  
はり玉ひり多形ど。あそれなる物わら。  
世よ名言まよや。大掌會の歌形どふ。よま



令集和歌集よ云

大嘗会皇基方辰日条吉彦又鼓山字よ云云

藤原行盛

吉彦の記つきの山は赤毛にて吉彦の記つきの山は赤毛にて

是ハ保安四年詔度にて皇基方本州なる事。上ふも。下も引る。かえむら山の歌と。孫守山の歌にても。志うふ。歌字名所和歌集よ。この歌字引て。丹波の鼓山の歌と。云。阿やまり形り。

○雄倉山

大嘗会和歌集よ云

備中名考三十三

後冷泉院永承元年十一月十六日皇基方彼中園

雄倉山 村寺

本所皇基方彼中園

をて山帯ねりしおろし山村の世をさるるなり記つきの山

○石屋山

空陽形。奥坂村あり。

大嘗会和歌集よ云

村上天皇天章九年皇基備中園風俗村歌

いんや山 村寺

ちよも多敷村も皇基を修るなりいんや山の皇基方記つきの山

後一条院長和五年十一月二日皇基備中園

丙帖  
石屋山  
五月

内院檀越善流如長為政

色少多心即... 久... 信文... 山... 耶

子載和歌集云

治曆四年後三條院の御時大嘗乞主基方社

樂の寺いそや山子と免旨 後永隆衛

う... 代... 山... 林... 花... して

万代集云

言倉院仁安三年主基所屏風 依中

清輔

備中名簿考上二四

神代... 勅... 万代... 山...

新勅撰和歌集云

貞應元年主基社風俗いそや山 此の年社主

か... 板... に... 下... の

檀中納之頼資

海... 山... 万代... 山... 万代集云

○神村山 内。西板又あり。

万代集云

かみむら山 神村 保安元年大嘗乞主基方御



屏風

後永行感胡堂

ふみ振るふむのきりしむにやとむるよりのもつむ

夫末鈔よ云

正意大嘗會

隆博 秋意のる。神社  
秋意のる。神社

可代字はしてまいのふみ振る村山松原のまけり

和爾雅よ。是字備前の名取と。秋意是  
も。け歌をさへ引て。夫末備前とちふえ。と  
毛に誤まり。夫末はえ備前とち。そはうへ  
此度の皇基方ハ。本州なり。一幸。あまた  
び志る。たり。その創  
えても。あるべしなり。

○位山

備前名考三十五

續古今和歌集よ云

正元二年大嘗會の次よみ傳る。正元二年ハ。

里よ。ちきふ。文意元年と。ねたど  
度の子をれど。う。に。あるま。

中務御親王

まくられの位山乃小松系こくやふ世のけ見たるらん

大嘗會和歌集よ云

伏見院正意元年皇基位中 隆博

すはらまは位の山松原のまけり

あ中よ。才田の白松。くと。らと  
き。るハ。誤。た。れ。ど。何。ら。う。え。つ。

○日差山 考字歌。山  
後村よ。

大嘗會和歌集よ云

後三条院治暦四年十一月廿一日之基方彼中必

日差山

前筑前守後三任大臣朝臣經衡

あのおきくむけの山はうつくしきけくもる君臣代系

夫木抄よ云

ひさの山 日差山意大嘗會

大藏御隆暢

きふちのまきけひさのわたのみあけさせのえらるる

備中名所考三十六

○叡詩山 賀陽郡言塚村に在。○世に帝釈山

よか、里て。いづきの歌といひかた。さ  
れど、叡詩ハ言塚村よつけきハけ村を  
げつ。さて。歌ハ山とハあらぬども。歌  
よよ里て。こけりよも。ひきつるなり。

大嘗會和歌集よ云

後冷泉院永承元年十一月十五日之基方備中園

美言亭  
叡崎 本願兼文章博士權後保原兼家經

若さるの山よむきあるま那都のうらふ所代のをし免ちり  
系本よ。東田の白と。文字ふらぬこ  
み。かきひがめた里。今そのわらちよ  
て。々ふ了あとかきつ  
まども。程あるべし。



セトよむびき例トセるハ  
考結たりどふよやゆらん

大嘗會和歌集よ云

後冷泉院永承元年十一月十五日皇基方備中國

本段萬葉集博士藤原家經

妹山下有水居其色如紅紫

秋深みろわたりけりや河を山結毛みちきそえてる由

○富山 淡に於。富村よる。○同形。玉碇つり

の。左結方また。通ふ坂路の上

大嘗會和歌集よ云

備中名簿考上三十八

村上天皇天養九年皇基方備中國風俗神歌

むかより名つけそえたる富山えりて君代のたえりけり

才二の句結。そ文字を一本よ。とよきるハ。

得形り。今夫本抄よよりて。ゆきゆえつ。未

夫本抄よ云

とみ山 備中 家集

萬感

空み山のひまけりけり君代のあへる西人の結りたう家

大嘗會和歌集よ云

後一条院長和五年十一月二日皇基方備中國

巳帳  
富の山  
主月

内務省後善法部長為政

とみの山風をたけりて代々の事ありて云々たゆまじく

○大倉山

小田郡大倉村にあり。○門、宮と中社  
たをき山なるべし。とそ村の三村  
貴正の里。森のあたりにありて。  
次なる歌のたもむきにありて。

大嘗會和歌集よ云

村上天皇天夢九年大嘗會備中國風俗神歌

お知くら山

吉佐の國大くら山よりいへる君の代にたなる侍りて

後一条院長和云年十一月日基備中國風俗

備中名物考上三十九

神

大くら山

系中子。大の字を。石より作らる。  
今歌よりありてあらざる。

善法為政

水鏡面より抄厚くら山の柳集を年よりしてそ常居りて

○石目山

小田郡形  
賀村にあり

大嘗會和歌集よ云

後三条院治暦四年十一月日基方備中國

石目山

前筑前守俊成位上最系於長経衛

今より大嘗會の山を免山とてそ常居りて

○かさ免の山

未詳○ワゴ山圖の。吸江山。  
かさ免といへる松ありき





孫高山



備中名物考上四十一





まど。海よ里見ゆると先づん。いづこを尋ね  
や。おし。不曲。又。平山。連山よて。いづこを尋ね  
と。さ。し。び。こ。不。な。し。孫。言。と。け。る。賀。陽。歌。た。る  
こ。里。と。も。見。え。ど。た。ん。有。け。る。賀。陽。歌。た。る  
え。海。路。よ。里。見。ゆる。不。な。し。孫。言。と。け。る。賀。陽。歌。た。る  
よ。は。言。も。と。や。く。つ。も。る。と。こ。ろ。よ。あ。ら。ん。だ。

令集和歌集よ云

大嘗会之基方倚中国孙言山字よ免る

高き山といやう山の標を考ふるを那ふるもさる見ゆる里

清少納言双紙よ云

書を孫言此書 傍注よ云 倭中

備中名簿考上四十三

○松系山 未詳 ○旧説。上房郡。松山子。有。と  
の上。いと。き。海。く。し。て。系。と。い。ふ。べき。不。な  
し。又。系。記。子。出。さ。る。歌。の。歌。子。松。系。行。人。駐  
駕。と。ある。よ。か。あ。え。ず。行。路。と。す。歌。と。こ。ろ  
ふ。も。何。れ。だ。一。説。は。川。上。郡。二。ヶ。村。子。有。と  
い。へ。り。こ。ら。な。る。ハ。寛。永。の。中。別。興。地。系。子  
も。見。え。て。系。と。い。ひ。つ。べ。き。不。な。り。今。も  
官。道。み。て。行。人。駐。駕。と。ある。に。よ  
く。か。な。へ。る。が。お。と。く。た。も。不。曲。

大嘗会和歌集よ云

村上天皇天授九年之基方倚中国风俗林歌  
まほをら山

と記す那るまほをら山の深みよりあかくそたのむ君たちも

風雅和歌集よ云

院御製

村西跡ありては晴ゆく雲芳に秋の日さしに松葉にやま

伏見院

朝らうの松葉山乃秋をそりしゆくこれきよく思ひたり

秋風集よ云

建久九年皇基備中

資實

色かこぬ松葉山のかけよりも志多に八景の免えのみあるらん

○長回山

未詳○旧説よ。川上郡。中野村と云

るよとよと。又替多郡。夫戸村と。坂本村の  
いふともはひて。さだかならば。今思ふよ

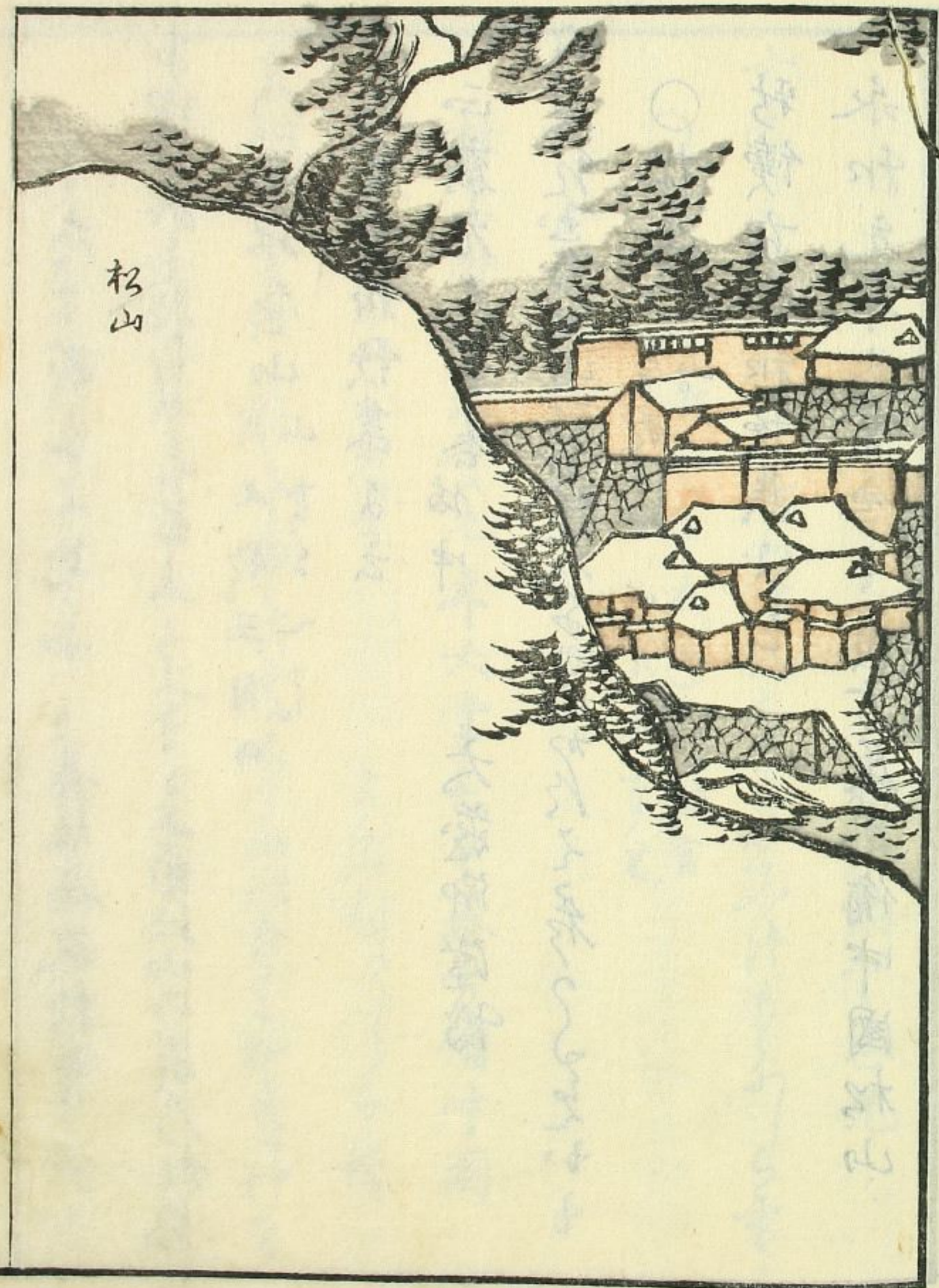
備中名簿考上四十四

を。小回歌と。下さ歌との撰なる。今ハ警署  
山と似る。山字。いふよと。山。その  
由。え。陰徳祀よ。猿掛城の援兵。長回山の  
陰。伏たり。よ。と。志。か。い。ひ。山。結  
る。け。た。が。し。そ。以。ま。で。ハ。志。か。い。ひ。山。結  
又。け。山。の。末。結。禁。よ。彈。琴。石。と。い。ふ。岩。あり。  
む。か。し。吉。備。公。の。琴。ひ。き。何。そ。び。玉。ひ。取。  
なり。と。神。傳。へ。たり。是。を。故。事。ふ。て。琴。ひ  
き。何。そ。び。し。た。る。取。字。と。歌。よ。せ。ら。れ。し。な  
る。で。多。れ。ど。志。多。た。れ。も。ひ。よ。れ。ふ。なり。け  
介。に。も。よ。り。と。記。る。あ。れ。ど。何。り。て。ら  
よ。を。も。ら。し。つ。別。巻。よ。あ。る。し。た。を。

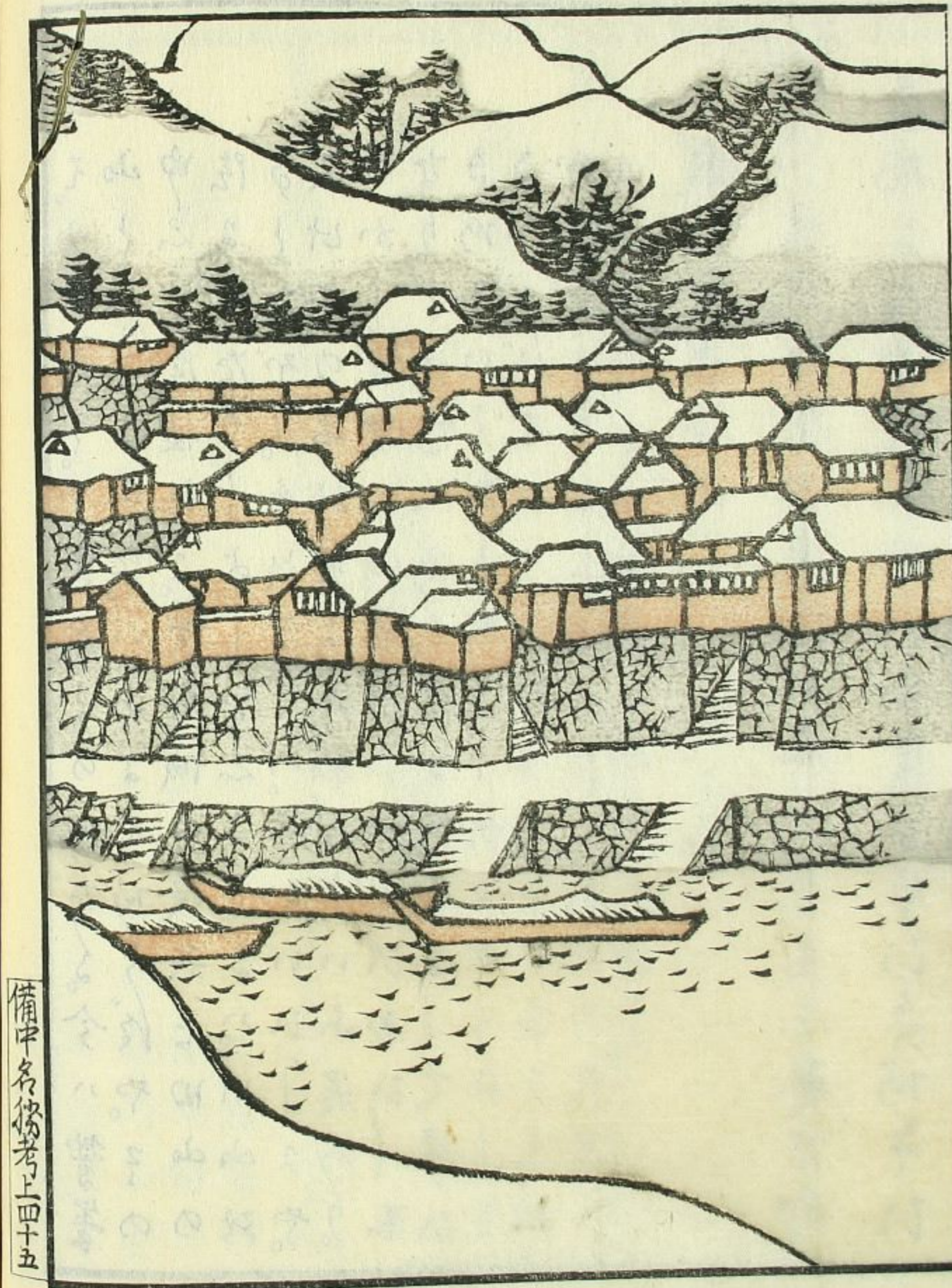
千載和歌集よ云

後一条院の御時長和五年大嘗会皇基方御

屏風に備中回長回山の禁よ琴ひき何そひ



松山



備中名物考上四十五

一たる所字よ免ふ 善原為政新書

予仰てのたのむとてまゝなる玉田結山の巖乃松風

○玉田を山川上歌。玉田の山たるべし。

大嘗會和歌集よ云

正應元年之基 佐中

大藏御證傳

吟く玉のせ山結玉桂八の世のたて居つるを免ふ

○松山 上房歌。松山。

新續古今和歌集よ云

永和元年大嘗會之基方屏風備中國松山

備中名考上四十六

檀大納之忠光

十返りのみほぬす 松山結松字書免ふ決りしを

○高倉山 松山に在。○八幡宮 たりせ玉ふ山あり。

新子載和歌集よ云

村上所時天養九年大嘗會之基方備中國

高倉山字よ免ふ

雲結上より代よのゆゆのいさくく山結幸うを免ふ

詞集和歌集よ云

後冷泉院所時大嘗會之基方屏風よ備中

ふたかろく山にありしの人花つ子もか  
まかきたるやこえよよ免る

後京家種朝臣

赤い色てたろく山にありし物ありし人ありしもの

大嘗會和歌集子云

後三条院治暦四年十一月主基方備中國

十一月

言倉山白雪多積

前龍藏守從五位上藤原朝臣種衡

去る玉結ちりりなる言なりし言くろく山に降り降るは

○秋坂山川上郡玉村に在。里人訛てアイサ  
コといふ。又田井村に在とも云。

備中名播考上四十七

大嘗會和歌集子云

後一条院長和五年十一月二日主基備中國

戊辰  
辛月

秋坂山

内苑権頭善流朝臣為政

りみらする秋坂山とあり世よりつらなりてと記す

玉葉和歌集子云

貞應元年大嘗會之基方御屏風に備中國あり

記さく山

前中納言頼資

袖し之を降ふくす物ありし秋坂山のりらかきん

○大村山

上房郡。有納村に在。○支村に在。

大掌會和歌集子云

後一条院長和云年十一月主基佐中國風俗

大むら山

善哉和長為政

君の代ハ祿き一也むるまみ果結おむし山よ見きたりよ

系中子。中二のウレ。一文字を。くとちるハ。  
あやまれの予あるけきバ。あらしやえつ。

○言橋山 竹契於中津 井村子在

大掌會和歌集子云

後一条院治曆四年十一月主基方備中國

言橋山有紅葉

前筑前守從二位上友家於長經衛

備中名橋考上四十八

色々に花をさす山よ見きたりよ言橋山のりみら形りさる

○黒髪山 竹契於中津 井村子在

秋風集子云

仁安三年主基御屏風 備中 清輔

わづ君え久し海一もをぬえ玉結黒髪山のりみら形りさる

新に載和歌集子云

文應元年大掌會主基方祚乐予子

從二位行家

色之ぬ黒髪山乃山ろくかくてやむきにつくまらむ

○总见山 阿賀郡。花見村。あり

夫木鈔子云

花見山 花見傳中。正意大掌舎

大藏御隆情

今そしちちぬ儀のあ見山風もうららに治まはる世字

才也の句を一本よ。風もうららげと云。

○直山 未詳。○淡日新。東小坂村の内よ。秋と

秋と云ふ形り。此を元ハ。すぐの精りたる詞みて。香不の詞を。かよはしていゝるよ

えあらばや。こハたもひえての考よ。えゆらげ。こハみ子あるを考よ。

備中名勝考上四十九

大掌會和歌集よ云

後三条院治暦四年十一月乙基方備中國

<sup>三月</sup>直山旅寄過山 前筑前守従六位上春原朝長經衛

<sup>中二</sup>道 あまはらちるまきか初山結初と世よさくをふくか

大正會社 敬啟者  
茲因本會社 承蒙各界  
人士 踴躍參加 茲將  
本會社 籌備情形 略  
誌於後 以誌 謝忱  
此致 各界 人士 敬啟

備中名簿考上五十



